

## ■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】 証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛 にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。	
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031
(インターネット ホームページURL)	<a href="http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html">http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html</a>
【特別口座について】 株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿 管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別 口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。	
単元株式数	100株
公告方法	電子公告の方法により行います。 (当社ホームページURL <a href="http://www.manac-inc.co.jp/">http://www.manac-inc.co.jp/</a> ) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場 合、日本経済新聞に掲載する方法で行います。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部



〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地  
TEL.084-954-3330 FAX.084-957-4370

<http://www.manac-inc.co.jp/>

マナックは、化学をベースに、技術と知識の融合により  
先端技術産業が求める機能を開発・提供する

研究開発型モノづくり会社です。



第68期のご報告

# 株主通信

2012年4月1日▶2013年3月31日



証券コード: 4364



取締役社長 杉之原 祥二

## 65周年を迎えて

当社は、1948年に製塩業を営む松永塩業組合の姉妹会社として分離、松永化学工業株式会社としてケミカル分野への第一歩を記しました。以降1952年に写真感光材料や試薬、1958年に臭素化合物と製造品目を拡大し、1960年には医薬品の製造業許可を取得、1969年には難燃剤の生産を開始し、現在の陣容の基礎が整いました。この間1959年に大阪営業所、1967年には東京営業所を開設し、全国への販売体制を整えてまいりました。

1988年には創立40周年を機に社名をマナック株式会社へ変更、海外を視野に入れた業務の展開にも積極的に取り組んでまいりました。また2009年に八幸通商株式会社を子会社化し販売力の強化にも努めてまいりました。

2000年には東京証券取引所市場第二部へ株式を上場、2011年には売上高100億円を突破いたしました。これらはひとえに株主の皆様のご支援の賜物と深く感謝いたしております。今後はグローバル市場への進出が社業の発展に不可欠であることから、昨年には海外企画開発室を設置しました。国内と海外の区別を取り払った事業展開で、グローバル企業としての新たなマナックの確立に全力で取り組む所存ですので、株主の皆様にはなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 企業理念

『スペシャリティーケミカルをベースに  
社会の進化・発展に貢献する』  
～進化する技術、  
そして進化する人間をめざして

### 経営理念

- 1 「地球環境・人間社会に信頼と安全・安心・感動を発信する会社」をめざす
- 2 英知と勇気をもって能力を最高に発揮し、企業価値の最大化をめざす
- 3 明日の未来社会から注目される会社をめざし、常に『革新』

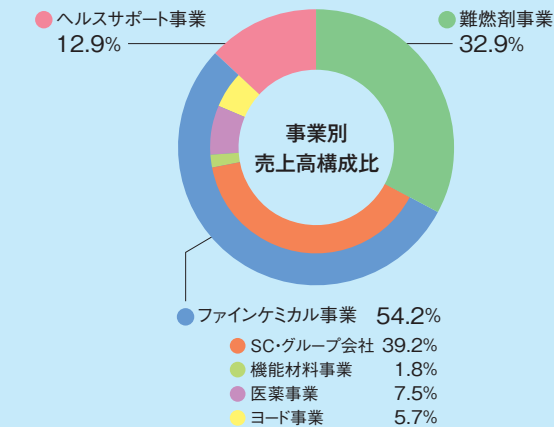
当連結会計年度における当社グループを取り巻く化学業界におきましては、海外品との競争が厳しく、またエレクトロニクス業界の需要の落ち込み等から厳しい経営環境が続ぎ、先行き景気回復の期待はあるものの、厳しい状況にて推移いたしました。

このような経済環境のもとで、当社グループは積極的に新しいマーケットの開拓とニーズの発掘に取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は9,240百万円(前期比1.3%減)となりました。

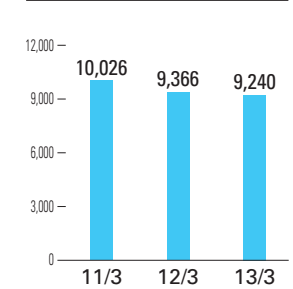
利益面では、営業利益、経常利益で高付加価値製品の伸び悩みにより前期比で減益となりましたが、当期純利益では、前年度計上した投資有価証券評価損及び退職給付制度終了損が減少したこと増益となり171百万円となりました。

セグメント別の売上高は、ファインケミカル事業の売上高は5,006百万円、難燃剤事業の売上高は3,044百万円、ヘルスサポート事業の売上高は1,189百万円となりました。

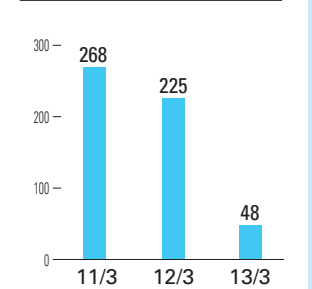


### ■ 連結財務ハイライト

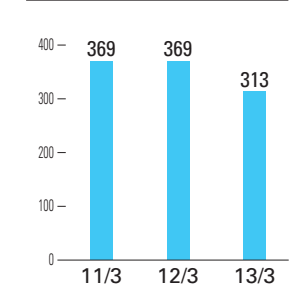
売上高 (単位:百万円)



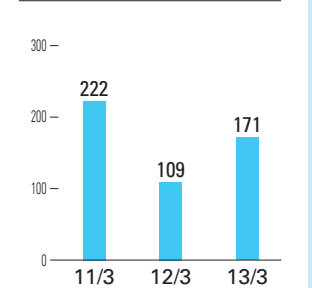
営業利益 (単位:百万円)



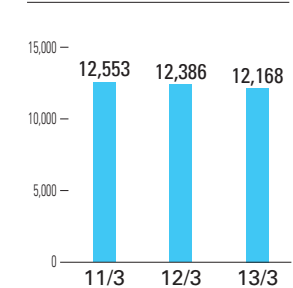
経常利益 (単位:百万円)



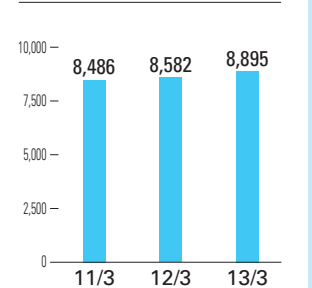
当期純利益 (単位:百万円)



総資産 (単位:百万円)



純資産 (単位:百万円)



## 福山から世界を見据えて 新技術・新製品の 研究開発を加速し、 グローバル・マーケットで 戦える企業へ。

新経営三か年計画も2013年度が最終年度となります。この計画の目標のひとつは、国内・海外の垣根を取り払った国際的なファインケミカル企業としてのマナックの確立です。今回は、この一年の業績を振り返るとともに、マナックがグローバル・マーケットを舞台に活躍するという大きな目標の実現に向けた、今後の方針などについてお伝えします。



### Q 2013年3月期の概況についてお聞かせください。

A 2008年のリーマンショック後、社内的にさまざまな部門でコストダウンに取り組んだ結果、2010~2011年度には業績を盛り返すことができました。2012年度についても当初は前年並みの計画を立てておりましたが、連続的な円高の進行や、ヨーロッパの信用不安、新興国の経済成長の鈍化などの影響により、当該期の業績は期首の計画を達成することができませんでした。これは、家電業界などの輸出不振や海外の工場の稼働率の低下などが続いた影響により、それらの製品の部品や部材の原材料となる当社製品が、二次的、三次的に影響を受けたものです。

### Q 各事業分野の状況はいかがでしたか。

A ファインケミカル事業では機能材料、電子材料の分野で、パソコンがスマートフォンに取って代わられる、デジタルカメラの売上が大きく減少する、コピーマシンのヨーロッパへの輸出が減少するなど、需要の量的な減少と機種数の減少という相乗的な負の影響を受け、当初計画および前年度比で7割程度の実績になりました。医薬分野についてはまだ売上の全体に占める割合は大きくありませんが、計画比で104%、前年度比で121%と堅調に推移しました。この分野は開発に時間がかかるものの、製品の完成後は長期にわたって安定した収益が得られるため、重要な事業として現在の2倍の規模を

めざして開発に取り組んでいます。

難燃剤事業は、当社の製品が最終的に難燃プラスチックとして家電品などで使われるため、電子材料と同様の状況で売上が伸び悩み、計画比91%、前年度比93%にとどまりました。昨年秋以降の円安傾向が当社のお客様に追い風となっておりますが、一時の為替差益だけでなく本格的な輸出の回復につながることを期待しております。ヘルスサポート事業は事業の大部分が透析薬剤の製造販売となりますが、年々の透析患者の増加に対応した結果、計画比101%、前年度比101%とほぼ計画通りとなりました。

### Q グローバル戦略についてお聞かせください。

A この数年折に触れて「グローバル・マナック」という言葉を使って、社員、役員ひとりひとりが毎日の業務の中で常に海外に目を向け、無意識にとらわれがちな国内と海外の不用な垣根を取り払うことを推し進めてまいりました。またこれまで為替の変動により二次的、三次的な影響を大きく受けてきたファインケミカルグループの下に国際グループを設置し、これらの影響を受けない海外での展開に取り組んでいます。

具体的にはヨーロッパ、アメリカでの医薬関係の中間体ビジネスに本格的に取り組むため、現地企業と代理人契約を結び現地に根を下ろした調査を行い、定期的な情報交換を行っています。また東南アジアには世界の製造工場が集まるという特性を考え、難燃剤のマーケットとして中国や韓国などで商社を経由しないダイレクトな顧客開拓を始めています。同時にヘルスサポート事業の分野では、医療健康に関心の高い中国の富裕層を対象に、透析治療の実態や潜在需要のリサーチを進め、中国での透析薬剤の事業展開の可能性を探るなど、新たな顧客開拓に取り組んでいます。

### Q グローバル・マーケット進出のカギは何ですか。

A 日本国内での品質を維持したままで、国際価格と戦うことは難しいでしょう。ポイントは「品質」ではなく「品質保証」だと考えています。価格競争に勝つための価格に合わせて品質を多少落としても、品質保証を徹底することで、日本製品に対する海外のお

客様の信頼を得ることができると考えています。当社には南京に4年前に買収した孫会社の工場がありますが、すでに日本流の運営で19年の操業実績があります。日本流に精通した中国人幹部も育てており、こうした工場が海外で日本の品質保証をアピールするための大きな武器になると考えています。

### Q 今後、重点的に取り組む項目はどのようなものですか。

A ファインケミカル事業では、売上に貢献できる強い製品づくりをめざします。このため、たとえば「電子部品やLED照明などに使用される優れた耐熱性の高機能接着剤」など、海外で戦える製品の開発を進めてまいります。

難燃剤事業では、環境条件や安全性をクリアすることが非常に難しいため、新製品を次々にリリースすることは困難な状況です。このため現在の製品の生産の合理化やコストダウンを進め、生産性を向上させることによって利益を生み出すことに取り組んでまいります。

ヘルスサポート事業では、引き続き透析薬剤の原料の安定供給に努めるほか、広島大学と共同開発した、ヒト・トリインフルエンザやノロウィルスの感染拡大を防ぐ新規固定化抗菌剤「Etak」の拡販に向け用途開発を積極的に取り組んでまいります。

またすべての分野に共通することですが、研究や開発のスピードを速めます。利益を生み出すまでの時間を最小にすることで大きく業績に貢献することができ、株主の皆様への信頼を得ることもできると考えています。

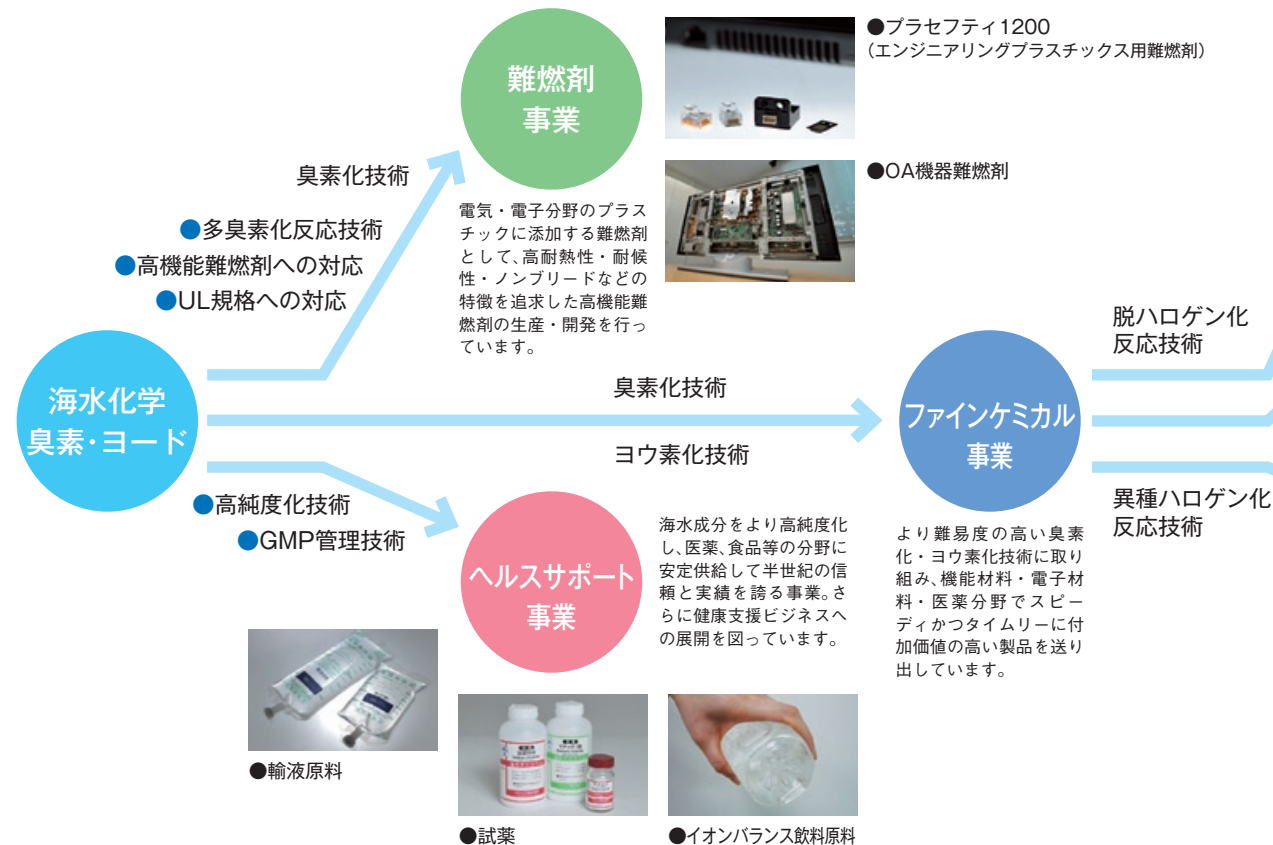
### Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 2013年度は新しい経営三か年計画の最終年度にあたりますが、グローバル・マーケットを舞台として積極的な技術革新に挑み続けることにより、計画目標を達成すべく社員、役員一丸となって邁進する所存です。また株価の上昇による企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様には、これまで以上のご指導、ご鞭撻を賜り、グローバル・マーケットでの地位の確立にお力添えをいただきますよう、お願い申し上げます。

# キーテクノロジーを磨き、高付加価値製品を創出。 先端技術産業の高機能化に貢献しています。

原点である臭素化反応技術を進化・発展させ、様々な分野に広がるマナックの事業フィールド。「臭素化・ヨウ素化と言えばマナック」と言われるほど、私たちの合成技術に高い評価をいただいています。この高い技術力・開発力で先端技術産業の高機能化に応えること、それがマナックの使命です。



## 技術開発・試作

様々な角度からプロセス検討を行い、安全・安定生産と製品品質の達成を可能にしています。

工場での安全・安定生産と求められる製品品質の達成に向けて、温度や触媒による反応スピードの変化などを考慮し、様々な角度からプロセス検討を行い、安全性を確保した上でサンプル合成を行っています。

サンプル合成用パイロットプラントを利用し、技術課題のフィードバックを基に品質を作り込みます。

最適条件を得るために技術課題のフィードバックを繰り返します。反応率・品質など製品ごとに要求される様々な項目を分析して次の反応に活かし、最終的な製造工程の品質を作り込みます。

## 生産

マルチプラントだからできるフレキシブルな対応。多品種・少量生産はマナックの大きな強みです。

マナックでは広範囲な生産体制を確立するため、多様な化学合成に対応するマルチプラントを採用。フレキシブルな生産設備とオペレーターの高い技術力が多品種・少量生産を可能にしています。

安全第一の文化を定着させるべく管理体制を整え、安全かつ安定的な供給を実現しています。

安全活動や教育により、安全性の確保や危険予知についての高い意識づくりを行うとともに、試作時には危険予知会議を実施し、安全に留意して安定的な供給を行う生産体制を整えています。

## 品質保証

お客様からの安心と信頼を得る製品づくりをめざしてISO9001の認証を取得。

品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の認証を取得。ハイレベルな品質保証体制を維持するため、厳格なプロセス管理と高度な分析力で顧客満足度の高い「品質」を実現しています。

厳しいGMP基準クリアは信頼の証。医薬品生産システムを追求した最新設備が稼働。

GMP対応型の医薬品専用工場と医薬品専用倉庫を完備するとともに、海外からの査察などのグローバルスタンダード(PIC/S)への対応を視野に入れた品質管理の整備に取り組んでいます。

## ■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当 期 2013年3月31日現在	前 期 2012年3月31日現在		当 期 2013年3月31日現在	前 期 2012年3月31日現在
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>7,552</b>	<b>7,879</b>	<b>流動負債</b>	<b>2,769</b>	<b>3,084</b>
現金及び預金	1,179	1,259	買掛金	1,220	1,235
受取手形及び売掛金	2,862	3,051	短期借入金	912	946
有価証券	268	160	未払法人税等	25	96
金銭の信託	1,100	1,200	賞与引当金	114	140
商品及び製品	1,058	1,028	その他	497	665
仕掛品	450	545	<b>固定負債</b>	<b>503</b>	<b>719</b>
原材料及び貯蔵品	420	387	長期借入金	196	333
繰延税金資産	96	121	役員退職慰労引当金	54	54
その他	118	127	負ののれん	40	81
貸倒引当金	△ 2	△ 2	その他	210	249
<b>固定資産</b>	<b>4,615</b>	<b>4,506</b>	<b>負債合計</b>	<b>3,272</b>	<b>3,804</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>3,027</b>	<b>3,073</b>	<b>純資産の部</b>		
建物及び構築物	1,077	1,098	<b>株主資本</b>	<b>8,716</b>	<b>8,605</b>
機械装置及び運搬具	588	608	資本金	1,757	1,757
土地	1,138	1,146	資本剰余金	1,947	1,947
建設仮勘定	48	50	利益剰余金	5,255	5,144
その他	174	168	自己株式	△ 243	△ 243
<b>無形固定資産</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>178</b>	<b>△ 23</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,585</b>	<b>1,429</b>	その他有価証券評価差額金	135	15
投資有価証券	1,265	1,030	為替換算調整勘定	38	△ 48
長期貸付金	109	109	繰延ヘッジ損益	3	8
繰延税金資産	1	84	<b>純資産合計</b>	<b>8,895</b>	<b>8,582</b>
その他	209	205	<b>負債純資産合計</b>	<b>12,168</b>	<b>12,386</b>
貸倒引当金	△ 0	△ 0			
<b>資産合計</b>	<b>12,168</b>	<b>12,386</b>			

## ■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

	当 期 2012年4月 1 日から 2013年3月31日まで	前 期 2011年4月 1 日から 2012年3月31日まで
売上高	9,240	9,366
売上原価	7,584	7,545
販売費及び一般管理費	1,608	1,595
<b>営業利益</b>	<b>48</b>	<b>225</b>
営業外収益	288	168
営業外費用	23	24
<b>経常利益</b>	<b>313</b>	<b>369</b>
特別利益	7	0
特別損失	21	149
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>299</b>	<b>220</b>
法人税、住民税及び事業税	64	120
法人税等調整額	63	△ 8
<b>当期純利益</b>	<b>171</b>	<b>109</b>

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当 期 2012年4月 1 日から 2013年3月31日まで	前 期 2011年4月 1 日から 2012年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	564	311
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 434	△ 141
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 231	△ 394
現金及び現金同等物に係る換算差額	21	4
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 81	△ 219
現金及び現金同等物の期首残高	1,283	1,502
現金及び現金同等物の期末残高	1,202	1,283

### キャッシュ・フローの状況

営業活動によるCFは564百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益299百万円や減価償却費等の非資金項目302百万円等を調整したことなどによるものです。

投資活動によるCFは434百万円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得や有価証券の取得に使用したものです。

財務活動によるCFは231百万円の支出となりました。これは主に、長期借入金の返済等や配当金支出によるものです。

これらの結果、当連結会計年度における現金及び現金同等物の期末残高は、期首に比べ81百万円減少し、1,202百万円となりました。

## ■ 連結株主資本等変動計算書 (2012年4月1日から2013年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	繰延ヘッジ損益	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	1,757	1,947	5,144	△ 243	8,605	15	△ 48	8	△ 23	8,582
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 60		△ 60					△ 60
当期純利益			171		171					171
自己株式の取得				△ 0	△ 0					△ 0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						120	86	△ 4	202	202
連結会計年度中の変動額合計	—	—	111	△ 0	111	120	86	△ 4	202	313
当期末残高	1,757	1,947	5,255	△ 243	8,716	135	38	3	178	8,895

## 株式の状況 (2013年3月31日現在)

発行可能株式総数	23,200,000株
発行済株式総数	8,625,000株
株主数	1,143名

### 大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
東ソー株式会社	1,608	20.0
財団法人松永育英奨学会	916	11.4
三菱製紙販売株式会社	607	7.6
株式会社広島銀行	322	4.0
マナック社員持株会	279	3.5
杉之原 祥二	254	3.2
合同資源産業株式会社	200	2.5
日本生命保険相互会社	148	1.8
株式会社三菱東京UFJ銀行	139	1.7
光和物産株式会社	121	1.5

(注) 1. 上記のほか、当社保有の自己株式が590千株あります。  
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 配当関連情報

### 当社の株主還元方針

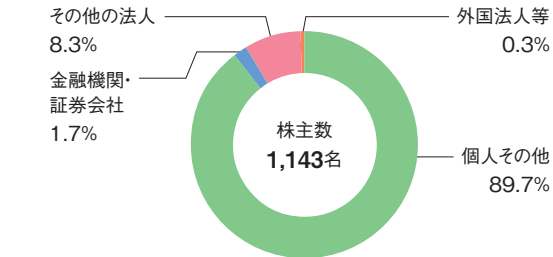
利益配分につきましては、長期的観点から事業収益の拡大と株主資本純利益率の向上を図るとともに、自己資本の充実と財務体質強化、株主の皆様への長期的、安定的な配当水準の維持に努めながら、利益配当額を決定していく予定です。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。これらの剰余金の配当の決定機関は、中間配当については、取締役会、期末配当については、株主総会であります。

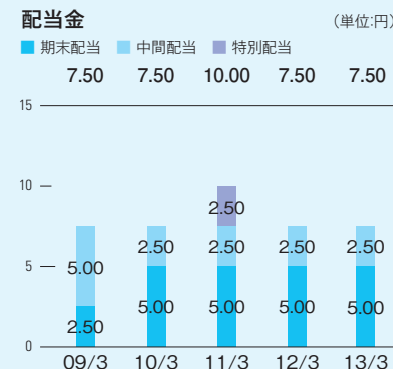
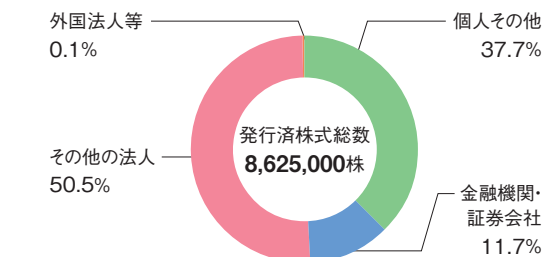
### 第68期の配当金

第68期の期末配当金につきましては、1株当たり5円とすることに決定いたしました。これにより、第68期の年間配当金は、中間配当金2円50銭を加え、7円50銭となりました。

## 株主数別分布状況



## 株式数別分布状況



## 会社概要 (2013年3月31日現在)

社名	マナック株式会社 MANAC INCORPORATED
本社所在地	〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地
設立	1948年(昭和23年)5月
資本金	17億5,750万円
従業員数	181名 (グループ従業員数329名)
事業内容	難燃剤、医薬品、食品添加物、写真感光材料、高機能性材料、電子材料、染料、香料など様々な分野の先端技術産業に原材料を供給

## 役員 (2013年6月25日現在)

代表取締役社長	杉之原 祥二
代表取締役専務	朱山 秀雄
常務取締役	村田 耕也
取締役	北村 彰秀
取締役	石井 潔
取締役	峰重 克己
取締役	千種 琢也
常勤監査役	日野 智章
監査役	内海 康仁
監査役	本田 祐二

(注) 1. 取締役 峰重克己氏及び千種琢也氏は、社外取締役であります。  
2. 監査役 内海康仁氏及び本田祐二氏は、社外監査役であります。

## 主な事業所

本社	〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地 TEL: 084-954-3330 FAX: 084-957-4370
東京支社	〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目8番4号 日本橋さくら通りビル6階 TEL: 03-3242-2561 FAX: 03-3242-2564
大阪営業所	〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目4番6号 ミフネ道修町ビル8階 TEL: 06-6205-6771 FAX: 06-6227-5978
福山工場	〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地 TEL: 084-954-3330 FAX: 084-953-8523
郷分事業所	〒720-0093 広島県福山市郷分町950番地の1 TEL: 084-951-2501 FAX: 084-951-2502

## 子会社

社名	八幸通商株式会社 [100%出資子会社で南京八幸薬業科技有限公司(中国・南京市)も連結子会社としております。]
本社	〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2丁目7番6号 晴花ビル3階
事業内容	化学薬品の製造、販売
社名	エムシーサービス株式会社
本社	〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地
事業内容	倉庫賃貸、事務業務の受託

## 関連会社

社名	ヨード・ファインケム株式会社
本社	〒104-0031 東京都中央区京橋2丁目12番6号 東信商事ビル7階
事業内容	ヨード化合物の製造、販売